

令和6年度第1回一関市学校給食センター運営委員会 会議録

1 開催日時 令和6年7月26日（金）午後3時から午後4時30分まで

2 開催場所 一関保健センター 多目的ホール

3 出席者

(1) 委員 佐藤拓史委員（委員長）、佐藤律子委員（副委員長）、
小笠原浩委員、今川晋委員、藤原洋委員、伊東洋司委員、
佐藤翼委員、菊池利行委員、小野寺千絵委員、三浦雄太委員、
岩館幸司委員、三上貴史委員、小野寺嘉奈委員

※欠席者 青沼徹委員、小岩勇樹委員、伊東研二委員

(2) 事務局 時枝直樹教育長、千葉せつ子教育次長兼教育総務課長、
八木浩司副参事兼学校教育課長、
千葉稔西部学校給食センター所長、
黒川俊之西部第二学校給食センター所長、
千葉一枝真滝学校給食センター所長、
猪股浩子花泉学校給食センター所長、
菅原春彦大東学校給食センター所長、
橋本雅郎千厩学校給食センター所長、
金野幸学校教育課長補佐兼保健係長、
木村幸子学校教育課栄養主任主査、
菊池可奈子学校教育課主任主事

4 委員長・副委員長の選出

事務局から、佐藤拓史委員を委員長、佐藤律子委員を副委員長とする案を提案し、同委員が選出された。

5 議題

- (1) 一関市学校給食センターの運営について
- (2) 食育の状況について
- (3) 学校給食費の納付方法及び納付期限等について
- (4) 学校給食費の収納状況及び収納対策について
- (5) その他

6 公開・非公開の別 公開

7 傍聴者数 0人

8 時枝直樹教育長あいさつ

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

ただ今、給食センター運営委員の委嘱状を交付させていただいたところではありますが、本運営委員会は、学校給食の調理や給食費の納付、食育の推進等の各学校給食センターに共通する課題について審議していただき、給食センターを適正かつ円滑に運営するために設置しております。委員の皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

小中学校においては、本日までに1学期の終業式を行った学校が2校あります。明日からは全学校が夏休みに入るところであります。この令和6年度の1学期も、命にかかわるような大きな事故がなく、子ども達が楽しく元気に夏休みを迎えることができるかなと思っております。

これも、PTA、保護者の皆様、学校関係者の皆様に日々ご尽力いただいたおかげと感謝しているところです。

さて、子どもたちの生活の基盤となる健康面について、学校では、ご家庭や地域と連携して望ましい食習慣、生活習慣の確立と運動習慣の形成を推進し、子ども達の健やかな体づくりを進めているところです。

その中でも、今日の会議に関わる場所である学校給食については、健康保持だけではなく児童生徒が望ましい食習慣を身に付け、仲間と食することで協調性や社交性を学ぶ、生きた教材として重要な役割を担っているところと考えております。

令和6年度においても、郷土食や地場産食材を活用した給食の提供や、生産者等との交流を通じた食育活動を進め、郷土に関心を持つことを目標に「郷土愛を育む食育交流事業」を実施していこうと考えております。学校給食レシピコンテストの募集も進めておりますので、各ご家庭において取り組んでいただければと思っております。

本日の運営委員会では、学校給食センターの運営、食育、給食費の納付状況等についてご説明いたします。

また、現在、大きな社会的課題となっております、食材費をはじめとした様々な価格の高騰や児童生徒数の減少についても、学校給食センターの運営に大きく影響しておりますので、その対応についてもお話しさせていただきたいと思っております。

本日は、限られた時間ではありますが、皆様方から様々な角度・視点からの忌憚のないご意見をいただければと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

9 協議内容

(1) 一関市学校給食センターの運営について

資料に基づき事務局から説明を行った。

事務局 学校給食費を巡る動向について、補足説明を行った。以下、質疑応答等。
度重なる食材価格等の高騰により、現在の給食費では学校給食の質を維持することが困難な状況が続いている。そこで、令和4年度、令和5年度は国からの臨時交付金を活用し、令和6年度は物価上昇分を市で補填することで、保護者の皆様の負担軽減を図っている。

ただ、この補填は児童生徒の保護者の皆様の負担軽減を目的としているため、教職員の皆様には、食材費の価格高騰相当分もご負担いただいているところである。

令和7年度以降の給食費についても、依然として先が見通せない状況が続いており、児童生徒の給食費の改定も視野に入れる必要性が生じている。

また、市の補填も必ず約束できるものではないため、来年度以降、保護者の皆様にご負担いただくことも考えられる。

そこで、これからの検討の参考にするため、保護者の皆様にアンケート調査を実施することを考えている。内容としては、「給食費を増額し提供日数は変えない」、「給食費は据え置き提供日数を減らす」の2択の質問をさせていただき予定としている。その際にご協力をよろしくお願いしたい。

委員 2点伺いたい。

1点目は、近年の価格の高騰に関わるが、最近不安視しているのが米の価格高騰である。私たちが普段食べている給食は、週5日のうち4日間がお米を使った給食であるため、影響がとても大きいと考える。もし、米の価格高騰が続くようであれば、米を使った給食の回数が減らされることあるのか心配している。

2点目は給食費について。教職員が食材価格高騰分を負担するのは問題ないが、保護者は、教職員が負担している給食費の額が児童生徒と違うということを知っているのか。そのことが周知されているのか伺う。

事務局 まず、米の価格高騰については、米の価格に限らず食材全般の価格が高騰しているので、米の価格高騰分も含めて今後給食費の検討をし

ていく。

なお、給食用の米の価格というのは毎年、上期、下期の年2回JAから提示されている。米の価格は高騰しているが、米飯給食は週4回そのまま推移するものと捉えている。

次に、給食費について、保護者の皆様にお知らせしている給食費の額は児童生徒分の金額となっており、教職員の皆様にお支払いいただいている金額は提示していない。

委員 全ての給食センターで調理業務の民間委託をしているということだが、今、物価もさることながら最低賃金も上がっているということで、賃金は委託料で支払われているのか、それとも、それぞれの業者の運営費から支払われているのか、最低賃金が上がって困っているということはないのか伺う。

事務局 調理業務の委託について、賃金は、委託料の中から支払われている。委託業者を決める際は、入札方式ではなくプロポーザル方式をとっており、安価なところに委託する決め方はしていない。

委託料の主たるものは人件費になっており、5年間の委託契約ということで、調理業務に対しての考えや、5年間の人件費などについてご提案をいただき、その中でより良い給食を提供いただけると思われる業者をお願いしているところである。

そのため、現時点では委託業者から、賃金が高騰している、ベースアップしているので困っているというようなお話は特に受けていない。

もし、そういったお話があれば、協議して進めるということで契約している。

(2) 食育の状況について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 資料の8ページ、残食に係る費用、残食の処分費用は発生しているものなのか。

事務局 残食の廃棄費用については、市全体の契約になっており、一括して支払われている。全体での支払いのため金額がいくらかはわからないが、費用はかかっている。

委員 残食について、業者で廃棄処分をしているものだと思うが、養豚場に持って行って活用しているなどそういった無駄にしないような取

組をしているものなのか。分かる範囲でかまわないので教えてほしい。
事務局 廃棄する残食の有効活用については、以前、そういった活用があったという記録はあるが、現在は特に行っていない。

廃油に関しては、回収業者へ提供し、リサイクルしている。

委員 そうすると、残食は完全に廃棄ということになるのか。

事務局 廃棄になる。

委員 残食について、毎年これくらいの量が食べられずに処分されていて、廃棄するためにこのくらいのお金がかかっているということを教えるのも、子どもたちの学びの機会になるのではないかと思う。

(3) 学校給食費の納付方法及び納付期限等について

資料に基づき事務局から説明を行った。質疑応答等なし。

(4) 学校給食費の収納状況及び収納対策について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員長 給食費について、保護者に負担を求めない自治体が出てきているという報道があるが、現段階での市の考えはいかがか。

教育次長 給食費の無償化については、議会でも議員から度々質問があがっているが、現時点では無償化は考えていない。

給食費については保護者が負担するというルールがあり、給食とは全国の小中学校で実施されているものなので、無償化については国が先導的に施策として進めていくよう引き続き要望していきたい。

来年度以降の見通しはまだはっきり申し上げることはできないが、今年度は、物価高騰の部分は市で補填しながら、保護者負担額が上がらないよう、給食費据え置きを維持しているところである。

(5) その他

議長が各委員に対し意見及び感想を求めた。以下、意見感想等。

委員 去年、母親委員として学校の保健委員の会議に呼ばれた際に、栄養士や養護教諭、薬剤師と保健関係の話をさせてもらう機会があった。その時にも残食について話題にあがった。

うちの子どもが言うには、ちょっと大げさかもしれないが、給食を食べる時間が10分程度しかないとのこと。授業が終わって昼休みに入るまでに準備をして、配膳をして、食べて、片付けるので、食べる時間がすごく短いとのことで、それも残食に繋がっていると思う。

何年か前に、残食が多いことが学校内でも話題になり、生徒会が残

食を減らす活動をしたことがあった。授業が終わったらすぐ給食の準備に取り掛かるなど、そういうことを生徒会が積極的に取り組んだ1年間は、とても残食が少なかったそうなので、他の学校でも参考にさせていただければと思う。

委員 議題の中で問題提起があって、それを皆さんで考えるというのはこの場ではなく、別なところで考えられているものなのか。私の受け取り方としては、今日の委員会は報告事項だけだったのかなと感じたので、例えば、残食について対策するにはどうしたらいいのかといったことをこういう場でもお話しできればいいと思った。

委員 小学生、中学生、高校生の子どもがおり、それぞれ、給食に対して美味しいと言って食べているので、良かったなと思っている。

委員会に参加するにあたり、高校生の子どもに給食のことを聞いたときに、小学校3年生までは盛岡市にいて、小学校4年生から一関市に来たが、ご飯がとっても美味しかったと言っていたので、それは伝えておかなければならないと思った。

あと、私が気になったのは、子どもたちへの指導のテーマで、飲み物に含まれる砂糖の量を指導したというところ。どうしても、コンビニエンスストアなどで手軽に色々な物が買えるようになって、生活の中で砂糖の量が増えているのが気になっている。食塩の量を減らすための工夫は世の中に流れているが、砂糖を減らすための工夫、例えば麴を使うと良いとか、そういったことは学校や市を通して発信されることがあまり無いと思っているので、砂糖を減らすというところに着目して、何か発信していただけるといいと思っている。

委員 残食はどうしても発生してしまうものだとは思いますが、完食するための働きや、完食を促す取組も必要なのかなと感じた。100%残さないというのはなかなか難しいが、完食を目指すことを促すことは、子どもたちにとっては、「残さないで」と言うより全部食べようと前向きな気持ちになれると思った。

委員 保健所という立場から、衛生管理を徹底し、安全安心な給食を提供していただくこと、残食という観点からも積極的にアプローチしていただくことをこれからも期待したい。保健所の栄養士や食品衛生監視員などの仲介指導も毎年度対応していただき、指摘事項については改善いただいている。引き続きよろしくお願ひしたい。

委員 岩手県教育委員会では、6^{ロクマル}0プラスプロジェクトとして、規則正しい生活習慣と、より良い運動習慣と、望ましい食習慣の形成に向け取り組んでいる。特に、望ましい食習慣というところで給食がすごく大事であると捉えている。食習慣について教える時間がなかなか取れない中で、かみかみ給食や地場産食材を使った給食の提供、物価高騰の中でも必要な栄養素を必ず盛り込んでいただくとか、たくさんの工夫をしていただいて大変ありがたいと感じている。

また、今日から夏休みに入ったということで、夏休み中は給食がないため、逆に心配なご家庭もあるのかなと思っている。学校としては、朝ごはんを食べてきなさいと指導したいところではあるが、中にはなかなか言いにくいご家庭もあり、先生方から、食の指導をしづらくなってきたという声も聞く。家庭によって様々な問題を抱えているため、これからも給食の力を存分に発揮していただいで、子どもたちを育てていきたいと思っている。

委員 給食を通して、地元の食材を子どもたちに食べてもらうということで、農産物を安定的に供給できるように価格の問題も含めて教育委員会に情報提供しながら、取り組んでいければと考えている。

委員 教職員は色々な地区を回るが、一関市については様々な事業や栄養教諭による食指導などが手厚く大変ありがたい。本校に来る栄養教諭に、大変ではないかと尋ねた際に、とてもやりがいになっているとのことをお声をいただき、よかったと思っている。

委員 先ほど、子どもたちの給食費と教職員の給食費の話をしたのは、給食センターから出された食育だよりも、両方の給食費の金額が掲載されていたからである。実は、子どもたちだけの給食費をクローズアップしても、高いのか安いのか意外とわからない部分がある。教職員の金額と子どもたちの金額を比較することで、いかに子どもたちは安い金額で給食を食べているかがわかる。今、どこに行っても、一食300円台で食べられる食事は無いだろうと思っている。なぜこの話をするかという、給食費の未納率が高い学校に赴任することが多かったのも、給食費を支払ってもらうにあたり、何かいい説明はないかとずっと感じて指導してきた時期があったので、こういう食育だよりはすごく大事だと思っている。

各給食センターで食育だよりが出されていると思うが、内容はセン

ターごとに異なるのか。

事務局 内容は給食センターごとに異なる。

委員 食育だよりを見るとすごく楽しいので、本校の職員には、配布されたら必ず読んでほしいと今年度から言っている。私自身、今年度開催された食育講演会に参加したことで、食の大切さを改めて感じたところである。

委員 この値段で、様々な工夫をしながら、給食提供をしていただいていることに感謝しかない。今まで、色々な地域で給食を食べてきたが、一関市の食材の豊かさや一つ一つのクオリティーの高さはお世辞抜きで本当に一番良いところだと感じており、彩りなどの細かいところまで配慮が行き届いていると思っている。

給食を子どもたちの学びの機会にしながら、なるべく残さないでしっかり食べられるように、自分の体をしっかり作るような指導が学校でも必要だと改めて感じている。

委員 時々、子どもたちの給食の様子を見るために教室に入っているが、子どもによっては好き嫌いが激しかったり、たくさん食べられない子どもがいたりする。最近見ていて嬉しいのが、黙食が無くなってからは友達と会話をしながら食べているのだが、「今日のおつゆ美味しいよね」とか食材に関わる会話が出てきていること。そういう会話をしながら食べている。子どもたちが食材に目を向け、今日のメニューの味がこうだよねというような関わり方が出てきたことはすごく良いことだなと感じている。

本校は、食指導で栄養教諭にたくさん来ていただいている。この間は、ほうれん草と小松菜とチンゲン菜を持ってきていただいて、「どれがどれかわかる？」という話から入っていただいた。野菜嫌いな子どもたちが多いのだが、実物を見て、これがほうれん草だよと話をしだすと盛り上がる。そして、今日の献立に一関市内で生産されたほうれん草が使われていることを伝えると、子どもたちは「えー！」と言って、興味を持って食べたということがあった。やはり、子どもたちには興味を持つとか、美味しそうだなと感じるとか、地元の食材だと知るといことがすごく大事だと思った。

最後に、実態として、朝食をちゃんと食べて来られない子、バランスよく食べて来られない子が多いので、給食でそれを補うことができ

ているということが非常にありがたい。給食を残さないために、休み時間に一生懸命遊んで、体育の時は思いっきり汗を流して運動する。そうするとお腹が空いて給食が食べたくなるし、牛乳も飲みたくなるので、そういった観点からも、いっぱい体を使って、給食に向かわせたいと考えている。これからも食材にこだわって、教職員にも栄養教諭にもお願いしながら、みんなで子どもたちと語りながら給食を食べていけるようにしていきたい。

副委員長 食べるということのは一番大事なことで、命を繋ぐことであるので、ご飯を食べてくださいという話を常にしている。

今、行事食や郷土食を食べる機会が少ないと感じる。自分が小さいときには、おこわやすいとんなどおばあちゃんの味というものがあったが、今は食べられなくなってきている。郷土食などを伝えていくことも食生活改善推進員協議会として行っているので、皆さんにも利用していただければと思う。

先日、食の匠という事業で、餅を凍らせて食べる凍み餅の職人を推薦する検討会があり、その際に、「昔はおばあちゃんが冬場に作ってくれて、おやつに食べていたけれど、今は食べられなくなったよね。」という話がでた。伝統的な郷土食を子どもたちに伝えていければいいと思う。

委員長 食育について、栄養教諭に来ていただいて指導してもらおう機会があるのだが、教職員側が忙しい雰囲気醸し出してしまい、栄養教諭に気を使わせてしまって申し訳なく思っている。

給食の限られた時間の中で指導していただいているが、その時間だけで子どもたちに理解させるのは不十分なところがあるので、学年ごとではなく、クラスごとに時間を設けて指導していただくことが非常に大事だと感じる。なかなか声をかけづらいところがあるかと思うが、ぜひ、栄養教諭の方々からもそういうアプローチをしていただき、学校もそれを受けられるように準備していかなければならないなと感じている。

10 担当課 教育委員会事務局学校教育課